

平成29年度 学校評価アンケート結果分析

岐阜本巣特別支援学校

1 保護者・学校評議員対象アンケート結果

(1) 今年度の結果分析

- ・ 全39項目の質問に対し、A「よくあてはまる」とB「ややあてはまる」の肯定的な回答割合が80%以上の項目数は、小学部で28項目、中学部で20項目、高等部で20項目あった。
- ・ C「あまりあてはまらない」、D「まったくあてはまらない」といった否定的な回答の比率が20%以上（比率として高いと考えられる）の項目数は0であった。
- ・ 3学部すべてで「あてはまるA+B」の評価を受けた項目は、昨年度と同じ16項目であった。このうち14項目は「教育方針」「家庭との連携」「教職員」「授業」に関することであり、学校教育の根幹となる重要な項目において高い評価を受けた。
- ・ 3学部すべてでE「わからない」の回答割合が多かった項目は「24体罰の防止」「25いじめ・差別への対応」「31社会資源の利用」「32ボランティア等との協力」「39地域のセンター的機能」であり、昨年度と同じであった。現状は「体罰防止」「いじめ・差別への対応」は3学部とも全職員で取り組んでいる。これらの取組状況について、保護者に明確に伝える必要がある。

(2) 昨年度との比較による分析

- ・ 「あてはまるA+B」の比率が昨年度より増加している項目が18項目ある。
- ・ 項目24～39の「その他」と「学校独自の項目」については、E「わからない」の回答が多くあった。この結果は毎年繰り返しており、検討して改善する必要がある。

2 生徒対象アンケート結果

- ・ 対象生徒の多くが就業体験中であったことが影響し、回答率が80.3%であった。
- ・ 昨年度の課題を受けて、質問の文章表現や回答の選択肢を見直して実施した。アンケートに取り組む様子から、生徒たちにとって回答しやすくなったようであった。
- ・ 概ね良好な結果であるが、引き続き生徒の視点を大切にしていける必要があるので、さらなる改善を図っていきたい。

3 考察と課題

- ・ 保護者・学校評議員対象アンケートの回答率が84.7%であり、昨年度の89%を下回った。昨年度と今年度の違いについては、昨年度は7月にアンケートを実施したが、今年度は新入生の保護者がより学校を知ってからとの配慮から10月に実施した。実施時期に問題はなかったと考えているが、行事等が重なったり回収期間が短かったりしたことが影響したかもしれない。
- ・ 特色ある教育の展開については、高等部の評価が良好に伸びていた。学校の特徴や強味（つよみ）として、今後も継続していきたい。
- ・ 専門性の向上、的確な実態把握、児童生徒に合った授業や教材・教具については、さらに評価を上げていきたいと考えている。
- ・ 毎年のアンケートで「わからない」の回答が多い項目がある。質問の内容をわかりやすくしたり、負担なく回答できるように項目を減らしたりなど、アンケートの改善が必要である。